



Japan International Birdman Rally 2019

お
や
け
お

摂南大学広報誌

特集

- 鳥人間コンテストに出場 P.02
- 「農学部」が2020年4月開設へ P.15
- 「All 摂南大学 Day」を開催 P.16

2019 SEP
No. 11



「守口門真YEG×摂南大学」チームが 鳥人間コンテストに出場!

7月27日、28日に滋賀県彦根市の琵琶湖東岸松原水泳場で開催された、「第42回鳥人間コンテスト2019」(主催:読売テレビ)の滑空機部門に、
 本学航空研究部と守口門真商工会議所青年部(守口門真YEG)との協働チーム
 「守口門真YEG×摂南大学」が出場を果たしました。

機体名は「さやけき☆みらい号」

このプロジェクトは、本学学生が社会人の方と協働して「鳥人間コンテスト」に挑戦する中で、機体の設計・製作などのものづくりを通じ、社会人基礎力を身に付けることを目的として、昨年4月にスタートしました。

8月には課外活動団体「航空研究部」を発足。揚力計算に始まり、機体設計、出場審査のための完成図や詳細設計図の作成、部材の調達、組み立てと、大空を飛び夢を目指して試行錯誤を続けました。機体設計のポイントは、揚力を受けて、より長距離を滑空できるように主翼を大きくすること。そのため、部材の種類や使い方などでは軽量化を徹底的に追求しました。

大学と企業城下町の 知恵と技術、熱い思いを結集!

本チームの最大の特長は、企業城下町の経営者としての経験と技術を持つ守口門真YEGの皆さんとの協働であること。月に一度の定例会では、リーダーの堂野将幹さんをはじめ学生側からも活発に意見を発信し、回を追うごとに熱い議論が繰り広げられました。意見が分かれた時にはそれぞれの方法を検証し、より良い形へと集約させていく。大会1週間前まで、連日調整が続きました。パイロットの宇田育生さんも、大会前1カ月は毎朝8~10km走って体重を約5kg落とし、体幹トレーニングで体づくりを行いました。

そして迎えた大会当日、開催が危ぶまれるほどの雨と風という厳しいコンディションの中、プラットフォームへ。スタートした瞬間、強烈な突風に機体が持ち上げられるアクシデントに見舞われた結果、テイクオフがままならない状態となり記録は11.4mに終わりました。しかし、揚力を含めた機体の持つ可能性への確信と、今回の体験を通して得られたチームのポテンシャルを実感するなど、次年度に向けた挑戦の礎を築くことができました。さらに、守口門真YEGの皆さんとの最高のパートナーシップを築けたこともかけがえのない経験となりました。



①いよいよ滑空に向け、プラットフォームへ ②テストフライト前、作業場で集合するメンバーたち ③機体の軽量化に向けて試行錯誤が続いた

【滑空機部門】のルール

- 機体は自作による人力飛行機であること。 ●プラットフォームの先端から着水した機体の最後尾までの飛行距離を競う。
- プラットフォームの高さは水面から10メートル。助走路は10メートルで、傾斜角は3.5度の扇形。

挑戦できた過程がすごく楽しかった。守口門真YEGの皆さんとの絆は今後も残していきたいですし、熱心な後輩も大勢います。次の年に向けて再び挑戦し、部活としての基盤を固めていきたいです!

リーダー 堂野 将幹さん
 (理工学部 機械工学科3年次)

飛行機を組み立てることに夢を感じて参加。結果は「悔しい」のひと言に尽きますが、守口門真YEGの方々との意見交換や協賛金の協力依頼のための企業訪問など、さまざまな社会経験ができました!

パイロット 宇田 育生さん
 (理工学部 機械工学科3年次)



『 摂南大学のSDGsの取り組み

— 教養教育におけるSDGsの導入 —



学長
八木 紀一郎
Yagi Kiichiro

SDGsとは、Sustainable Development Goals(持続可能な開発のための目標)の略称で、国際連合(United Nations)が国境を越えた全人類的な課題として、その達成を全世界に呼び掛けたものです。タグライン「Smart and Human」を掲げ、国連アカデミック・インパクトにも加盟して活動してきた本学も、それに応えていきたいと考えています。

SDGsは2015年の国連総会で採択され、2030年までの15年間で達成すべき17の目標で構成されています。そこには、「貧困」「飢餓」を全世界的に終わらせることから、「健康・福祉」「教育」「ジェンダー平等」「衛生」などの社会生活面での課題があります。そして、「持続可能なエネルギー」「産業・技術基盤」「労働の質を高める経済成長」「不平等是正」などの経済面の課題、「居住環境」「持続可能な消費と生産」「気候変動対策」「海洋資源保全」「陸上環境・生物多様性維持」などの環境面の課題があります。また、それらを実現するために必要な具体的な目標として、国際的な協力と制度づくりが示されています。それらはみな大学としても取り組むべき課題ですが、その範囲の広さと課題の困難さには、私自身圧倒されます。しかし、2030年を超えさらに21世紀を生き抜く学生諸君にとっては、それらは避けることのできない、現実と直面する課題群です。

本学では、昨年度からSDGsを教養教育に取り入れ、学生諸君の柔軟な頭脳と感性でこれらの課題について考えさせています。昨年度に開講したアクティブ・ラーニング型教養科目である

「大学教養入門」では、15回のうち2回分をSDGs理解のためのカードゲームなどのワークとして行いました(文中写真)。今年度はSDGsの理解と、課題の解決を体験することのできる教養科目「大学教養応用」を2年次前期の教養特別講義として開講しています。昨年度の授業では、学生の学ぶ意欲を大いに刺激することができました。4年次の就職活動中の履修生からは、「もっと早くこのような授業を開講してもらいたかった」という声もありました。また、今年度は地域・市民・行政への発信も行い、11月には「SDGsフェスタ@北河内」の開催も予定しています。



教養教育でのSDGsへの取り組みは、専門教育でさらに高度化することにより、本学の教育を特長付けるものになるでしょう。来春に開設する農学部では、持続可能性における課題との関わりが深いこともあり、学部全体の指針の中にSDGsへの取り組みを導入することにしています。本学は、教育だけでなく、研究と社会貢献においても、この全人類的な課題に意識的に取り組みたいと考えています。

index

特集 鳥人間コンテストに出場	02
学長挨拶	03
摂南大学の特色ある取り組み	
交流事業	04
学生生活	06
環境保全	08

学部TOPICS	
法学部・外国語学部	09
経済学部・経営学部	10
理工学部	11
薬学部・看護学部	12
情報教育支援・研究支援	13
入試インフォメーション	14

特集 「農学部」が2020年4月開設へ	15
特集 「All 摂南大学 Day」を開催	16
卒業生紹介	17
株式会社くれおーる	
代表取締役社長 加西幸裕さん	
後援会	18
奨学金・学費減免ご案内	19

摂南大学の特色ある取り組み

交流事業 Exchange Program

地域交流

「神戸まつり」で農学部開設をPR

5月19日、神戸市で開催された「第49回神戸まつり」に摂南大学がブースを出展し、2020年4月開設の農学部をPRしました。

毎年約100万人の人出がある「神戸まつり」は、パレードやサンバ、マーケットイベントなどでにぎわう神戸市最大の市民参加型イベントです。

来場者に
にぎわった
ブース



ブースでは、教職員らが農学部の学びや特長をまとめた冊子、オープンキャンパスの案内などを配布するとともに、実習先として連携する類農園で栽培した有機・無農薬・減農薬野菜を販売。地元テレビ局サンテレビによるインタビュー取材も受け、ICTを使ったスマート農業など新しい分野にも挑戦することを紹介しました。

神戸まつり
放送特別番組
でもPR



「枚方学術プラットフォーム」 「枚方産学公連携プラットフォーム」活動報告

枚方市における高等教育の活性化を目指し本学、大阪工業大学、大阪歯科大学、関西医科大学の4大学が「枚方学術プラットフォーム」を形成し、さらに、枚方市、北大阪商工会議所、資生堂ジャパン(株)の協力を得て、「枚方産学公

連携プラットフォーム」として昨年8月に発足し活動しています。合同入試説明会や中高生大学体験事業、未病、予防対策事業、防災施策の強化・充実などを展開するとともに、共同研究などにも着手する予定です。

「枚方学術プラットフォーム」開催イベント

開催日/場所	概要
7月5日(金) 大阪歯科大学 樟葉キャンパス	共同FD(※1)・SD(※2)事業 大学教職員などを対象に、北海道大学大学院経済学研究院 松尾睦教授による講演「職場が生きる、人が育つ学びの支援:経験学習の観点から」を開催。解説のほか職場で実践できる具体的なワークなどを行い、参加者の理解を深めました。 ※1:FD(ファカルティ・ディベロップメント)…大学教員の教育能力を改善、向上させるための実践的方法。 ※2:SD(スタッフ・ディベロップメント)…大学事務職員や技術職員などを対象に行われる職能開発の組織的な取り組み。
7月13日(土) 枚方市立 メセナひらかた会館	枚方4大学合同入試説明会 4大学が集結し、高校生を対象に合同の大学入試説明会を開催。
7月20日(土) 大阪歯科大学 樟葉キャンパス	子ども夢発見「大学と遊ぼう！」 小学4～6年生対象に、4大学がそれぞれ特色を生かしたプログラムをブース形式で実施。本学テーマ「においを科学する」は薬学部 伊藤優 助教が担当。子どもたちは実際の植物や生薬の匂いを手掛かりに「杏仁豆腐は何のにおい?」「ココ・コーラは何のにおい?」「あれもレモン?これもレモン?」のクイズに挑戦して盛り上がるなどブースは大盛況でした。
8月7日(水) 摂南大学 枚方キャンパス	枚方市の防災対策にかかる官学合同会議 枚方市危機管理官から「枚方市における防災対策」について講演。 避難所運営訓練 薬学部 串畑太郎 助教協力のもと、避難所運営ゲーム(HUG訓練)を実施。震度7の地震発生を想定したグループ訓練を行いました。

「枚方産学公連携プラットフォーム」開催イベント

開催日/場所	概要
7月19日(金) 摂南大学 枚方キャンパス	産後ママさん ビューティーアップセミナー 看護学部 鎌田佳奈美 教授から「子育てで知っておきたいアタッチメントについて」の講演の後、資生堂ジャパン(株)による「子育てママの時短ビューティーセミナー」を実施。枚方市在住の1歳未満の乳児を初めて育てる「ママさん」を対象に、短時間でできるメイクアップのコツについて実演を交えレクチャーを行いました。
8月10日(土) 関西医科大学 枚方キャンパス	健康沿線トークカフェ 「京阪沿線をもっと健康沿線に!～沿線の大学に今できること～」をテーマに、4大学と資生堂ジャパン(株)による講演、意見交換会を実施しました。

完成した
「初瀬姫」
学生考案の
ラベルデザイン



摂南大学PBLプロジェクト

はつせひめ サツマイモとみかんピールの酒「初瀬姫」が商品化 ～9月から発売スタート～

摂南大学PBLプロジェクトの学生が企画し、酒造メーカー八木酒造(奈良市)と協働で開発した酒「初瀬姫」が、寝屋川市内の酒店などで発売をスタートしました。この商品は、寝屋川市産業振興室主催の「ワガヤネヤガワ・ベンチャービジネスコンテスト2018」で協働部門賞

を経て、グランプリを受賞しています。女性にも飲みやすい新感覚の酒をコンセプトに開発し、商品名は同市のマスコット・キャラクター「はちかづきちゃん」のモデルとなった民話「鉢かづき姫」の主人公の名前に因んでいます。使用した材料は、同市特産品のサツマイモと、大学と

連携協定を結ぶ和歌山県由良町の特産品みかん。何度も試作を重ね、芋焼酎の芳醇な甘みを残しつつ、みかんの爽やかな香りを生かした酒が完成しました。



和歌山県

「大学のふるさと」活動

無病息災の祈りを込め、
学生協力最後のお盆伝統行事
すさみ町「佐本川柱松」を開催
～8年間、地元から学生が受け継いだ
230年続く行事に幕引き～

本学では、9年前に、紀伊半島南端近くの寝屋川市の友好都市、和歌山県すさみ町と連携協定を締結しました。

その後、県の「大学のふるさと」活動として、学生たちは、年間を通じて、限界集落である同町佐本地域の廃校となった佐本小学校を拠点に、高齢者の見守り活動などの過疎地活性化のための活動を展開しています。

8年前からは、佐本地域で200年を超えて守り継がれてきたお盆の伝統行事「佐本川柱松」が高齢化により継続困難となり、本学学生が受け継いで開催を続けてきました。しかし、それも今年の夏で最後となりました。台風10号の接近で一日順延となった8月17日

の日没後、無病息災の祈りを込めて、地元関係者ら約80人と学生42人、同時期に開催し学生が毎年大阪から引率している自然体験忍者キャンプ参加の小学生53人が「最後の柱松」を見送りました。

これまで柱松に携わった卒業生15人も駆け付ける中、地元新聞・紀伊民報の中陽一記者の問い掛けに、本活動まとめ役の学生、万木実歩さん(外国語学科4年次)が「自分たちは地域に何を残せたか?」と答える姿は、日本の伝統行事を若者が守り継いでいくことの難しさを印象付けました。地元住民からは「8年間の長きにわたりありがとうございました。これからもいろいろな形で力をお貸しください」「山里の伝統風景が一つ消えてしまい寂しい限りです」との声が寄せられました。

夏の「柱松」の協力開催は最後となりましたが、同地域での高齢者の見守り活動は引き続き行います。今回の取材記事は紀伊民報8月10日付と20日付に掲載されました。今後、学生らは柱松活動の準備から全ての記録をUSBメモリーに保存し地元へ届けます。

国際交流

海外語学研修・文化体験研修

国際交流センターが主催する、夏の海外語学研修・文化体験研修に22人の学生が参加しました。8月から9月にかけて、2～3週間の日程で、カナダ、韓国、タイ、台湾、マレーシアの5コースで海外研修を体験しました。このうち、カナダでは、バンクーバーで15日間のホームステイをしながら、昼は語学学校に通う英語漬けのコースで、出発前には、現地での学習効果を高めるため、参加学生を対象にネイティブの英語講師との会話イベントや国際感覚を養う研修を実施しました。韓国、台湾、タイ、マレーシアでは語学研修はもちろん、現地での文化体験や協定校の学生との交流、ホームステイなども行い、派遣先の国々についてより深い理解を得ることができました。

国際交流センターの企画による、これら海外語学研修・文化体験研修は、これまでに得た経験や成果をもとに、常に現地情報や協定大学との調整を経て改良を加えながら、新たな交流先、参加先も開拓しています。10月の「摂大祭」では、多数の保護者の方々や在学生を前に、それぞれの成果を発表する成果報告会を開催します。

一方、日本語・日本文化プログラムでは、この夏に37人の海外学生が本学で学びました。本学の学生も留学生サポーターや留学生バディとしてサポートに当たり、グローバルマインドを身に付けました。さらにこの秋からは、交換留学生として、中国・常州大学、台湾・義守大学から合わせて5人の学生が入学し、半年から1年間にわたり本学で学びます。

海外での学びについての相談にお応えしています

国際交流センターでは、海外派遣・受け入れを積極的に企画し、実施しています。次回の2020年春に実施する海外派遣の募集は、今秋に行います。

これに限らず、海外で学ぶことに関してのさまざまな相談に応じていますので、ぜひ気軽に国際交流センター(寝屋川キャンパス3号館4階)にお越しください。

自然体験
忍者キャンプ参加の
小学生を引率
指導対応



柱松の準備を
見守る住民ら



燃え上がる
最後の「柱松」



地元新聞
紀伊民報に
掲載された記事



柱松点火を
準備する学生



紀伊民報HPで記事が閲覧できます(2件)

← <https://www.agara.co.jp/article/17763>
<https://www.agara.co.jp/article/18859> →



学生生活 Student Life

在学生による 手づくりの企画で 新入生を歓迎！

4月3日、入学宣誓式を大阪城ホールで挙行し、新入生1824人(学部・大学院合計)が本学での学生生活をスタートしました。



新入生歓迎イベントでは、在学生が進行を務めたほか、「トビタテ!留学JAPAN」やソーシャル・イノベーション副専攻課程などの学生発表、ラグビー部員による「ハカ」の披露、吹奏楽部・ダンスサークル・ジャズ同好会・チャリーディング部によるパフォーマンスや、新入生に行ったアンケート結果を当日会場で発表する「新入生リアル調査」などを行いました。

このほか、新入生への歓迎メッセージビデオの上映や、「SNS映え」を狙った看板での記念撮影会なども実施。在学生約300人による手づくりの企画で温かく新入生を迎えました。



多くの
在学生たちが
参画した
入学宣誓式



和気あいあい
とした
雰囲気
のゼミ

「学長ゼミ」開講 オンライン英語で学ぶ 経済学

5月20日、八木紀一郎学長による「学長ゼミ」を開講しました。ロンドン大学の教員らが中心となり開発した、経済学の初学者向けのオンラインテキスト「CORE-ECON」を使用し、格差や環境など世界の現実の問題に即した最新の経済学を学ぶことを狙いとしています。

世界の大学でこのテキストを使って経済学を学ぶ「COREプロジェクト」が広まっており、八木学長は経済教育学会のCOREプロジェクト分科会のメンバーでもあります。ゼミは学生が学長室に自身のノートPCやタブレット端末、スマートフォンなどを持参する「BYOD (Bring Your Own Device)」形式で行われました。

学生が英文の翻訳を行った後、八木学長がパラグラフ内のキーワードの説明やグラフの読み方など、教材の解説を分かりやすく行い、教材テキストの英文読み上げ機能や日本語への自動翻訳も使用しました。英語から日本語への翻訳だけでなく、八木学長の経済学者としての話題も織り交ぜながら、幅広く経済学を学習できることもゼミの特長の一つとなっています。

オンラインテキストを
使いながら
学生に指導する
八木学長



授業デザイン研修 ワークショップを 開催しました

教務部教育イノベーションセンター主催の「授業デザイン研修ワークショップ」を4月27日、寝屋川キャンパスのスカイラウンジで開催しました。この研修は、教職員研修として2009年度から毎年度開催しているもので、学部・部署の

垣根を越えて、全学に共通する教育課題をテーマとして取り上げ、本学の教育改善につなげることを目的としています。ファシリテーターなど運営は全て教職員が担い、本学のニーズや課題に沿ったテーマで研修を実施しています。

今回の研修テーマは「全学初年次教養科目をデザインする」。到達目標を「学生が主体的に学ぶための教育の基本的構成要素、授業設計、成績評価法などについて検討し、それらの実践において必要な知識・技能・態度を習得する」と設定し、「学習者が主体的に学ぶ授業である」「学習者が対話的に深く学べる授業である」「指導者が学習者に支援ができる」などの要素を含む授業を組み立てていきました。

〈研修プログラム〉の内容

- ①学修目標
「アクティブ・ラーニングによる
全学初年次教育科目の設定と到達目標」
- ②学修方略
「目標を達成する授業デザイン
(事前・事後課題を含む)」
- ③教育評価
「事前・授業・事後評価方法
(ルーブリック表を含む)」
- ④ワールド・カフェ
「主体的な学びを促す
授業デザインとは」

ワールド・
カフェでの
様子



新規採用または将来を担う教職員16人に加え、今年度は新たに学生5人も研修に参加し、教職員と学生の立場を越えて白熱した議論を交わしました。

教育とは、学習者の行動に価値ある変化をもたらすプロセスです。学習者が学習の主体者であり、教員や指導者はあくまでその助力者すなわちサポーターに過ぎないとの見地に立ち、教員が何を教えたかではなく、学習者がその結果として何ができるようになったか、価値ある行動変化が起きたことで何を学修したのかが重要であることを研修で再認識しました。

学びの成果を生む手法として「アクティブ・ラーニング」型の授業が近年注目されています。アクティブ・ラーニングとは、ディスカッションや調査、プレゼンテーションなどの主体的・能動的な学習行動によって、「知識・技能」を深めていく教育手法です。本学でも「アクティブ・ラーニング」型の授業をいち早く取り入れてきましたが、この研修での学びをさらに生かし、学生が「主体的・対話的で深い学び」を実現するための教育改革を目指していきます。

グループワークでの様子



学園祭を開催します！

学生が主催する年に一度のビッグイベント、「摂大祭」(寝屋川キャンパス)、「摂友祭」(枚方キャンパス)を開催します。

アーティストライブや芸人ライブなどのステージ企画をはじめ、「Ms.&Mr. UNIVERSITY of SETSUNAN COLLECTION(セツコレ)2019」開催や模擬店出展など子どもから大人まで楽しめる企画が満載。家族や友人の方と多数の来場をお待ちしています。

(来場には公共交通機関をご利用ください)

第45回摂大祭

テーマ「BIG WAVE」

10月12日(土)～14日(月・祝)
in 寝屋川キャンパス



今年のテーマ「BIG WAVE」には、「大波・高波」のほか「大いに勢いづいている」や「流行やその兆し」といった意味があります。昨年は多くの方に来場いただき、大成功を収めることができました。今年もその波に乗り、昨年以上に勢いづいた学園祭を目指します。

第8回摂友祭

テーマ「楽しさ無限大∞」

10月14日(月・祝)

In 枚方キャンパス



今年は摂友祭が8周年を迎えることから、「無限大∞」と数字の「8」をテーマに盛り込むことで、「摂友祭に関わる全ての人に無限大に楽しんでほしい」という願いを込めています。「医療系学部の特徴を生かした学園祭」を目指し、医療に対して驚きや新たな発見を提供するイベントを企画しています。

新入生ふれあいキャンプを開催しました！

4月20日・21日、宇治市総合野外活動センター・アクトパル宇治を会場に、1泊2日の日程で「新入生ふれあいキャンプ」を実施し、総勢185人が参加しました。

最後はみんな仲良しになりました！！



このキャンプは、新入生が学生生活をスムーズにスタートできるよう行っている、新入生歓迎行事の一つです。アクティビティゲームや夕食作りなどを通じて、自己や他者に対する信頼感を深め、成熟した人間関係を構築するきっかけとなるよう実施しています。

このキャンプは、文化会系クラブ「ボランティア・スタッフズ」の学生スタッフが、準備から運営までほぼ全てを担当する、他大学では例の少ない特色のある取り組みです。学生スタッフたちは、約6カ月もの時間を費やし準備をしてきました。

最初は緊張気味であった新入生たちも、さまざまな活動を通じて打ち解け合う姿が見られました。キャンプ終了時には、「まだまだみんなと過ごしたい」「学部とキャンパスの枠を越えて

友達ができた」「次はスタッフとして参加して、新入生に楽しんでほしい」などの声が聞かれ、有意義なキャンプとなりました。

図書館枚方分館がリニューアルオープン

2020年4月の農学部開設に伴い、枚方キャンパスは現在の薬学部と看護学部を合わせて3学部を擁するキャンパスになります。

2023年春の農学部の完成年度を迎える際には、枚方キャンパスの学生数は3000人を超え、現在(2学部で1733人)の約1.8倍以上になる見込みです。

図書館では、こうした大学の拡充に伴う図書館サービス対象者の増加に備え、8月から9月初旬にかけ、図書館枚方分館のリニューアル工事を実施しました。その結果、利用者の皆さんには図書の利用がしやすくなるとともに、多くの図書資料の配架が可能となり、収蔵数を増やして生まれ変わりました。

■リニューアルポイント

- ①保存書庫はエリアを拡張し、書架を増設して収容量を増やしました。
- ②普通図書と参考図書ゾーンは、書架を増設するなどレイアウトを変更し、資料提供のスペースを増やしました。
- ③学術雑誌ゾーンには、農学部用の学術雑誌用書架を新設しました。
- ④エントランスゾーンは、明るい窓側に低層書架を新設し、閲覧席はできるだけ多くの方が利用できるよう並び替えました。
- ⑤事務室の一部を拡張し、資料の整理作業スペースを新たに設けました。



就活
学内合同
企業説明会



“就活”の状況

～内定率は今年度も「高水準」に～

今年度の「就活」も、2月には本格的に動き始めました。依然、企業の採用意欲は高く、売り手市場(学生有利)が続いています。日本経済団体連合会の指針では3月広報解禁、6月選考開始とされていますが、多くの企業はこれに関わらず募集活動を進めるのが実状です。企業側の早期人材獲得の流れがいわゆるインターンシップ(特に1DAY)の増加に反映されたことで、これが事実上の説明会開始になったとみられています。加えて、4月末からの長期連休を避け、短期間で選考を実施する企業も増えた結果、学生の内々定時期が全体的に早期化しました。

しかしながら、9月1日現在、本学の内定率は、76.0%。文系は70.5%、理系は84.1%で、昨年度とほぼ同じ状況に落ち着いています。夏休み中も企業の募集・選考活動は続けられ、公務員や他大学大学院受験者は秋以降に選考結果が出ることから、昨年度と同様に11月頃には80%を超える学生が進路を決定すると予想されます。

未内定学生の支援は？

～個別面談と行事でサポート強化～

就職部では、さまざまな事情から進路未内定になっている学生についても、個別面談を中心に支援を続けていますので、ご安心ください。なお、時期的なことを考え、就職希望の場合は早目の相談が望ましいと指導しています。

個別選考会・説明会／7月以降

企業単独の学内説明会実施中
※1次選考を兼ねる企業もあり。

個別面談／随時

就職部にて実施中
履歴書・エントリーシートの作成、求人企業紹介などどんなことでも相談を。

模擬面接／随時

就職部にて実施中(予約制)

就活の目的は、卒業後の社会人としての「本番」に備えることです。卒業・修了見込みの皆さんには、就活を「働き始める準備をする期間」と捉え、「自分がすべきこと」を認識

して、卒業研究を中心に学生生活の総仕上げにも全力で取り組んでほしいところです。

また、来年度以降の就活生の皆さんには、在学中にしっかりと将来を考えて、まずは大学での学び、友との語らい、課外活動などを通じて「充実した学生生活」を過ごすことをお願いします。そのことが将来の望ましい進路選択につながっていきます。今後も就職部ではこれをサポートしていきます。

就職ルール撤廃に関して

2020年度卒業・修了予定者(現3年次生・薬学部は5年次生)の就職・採用活動日程は、現行通りです(確定)。

2021年度卒業・修了予定者(現2年次生・薬学部は4年次生)については、今後、関係省庁との協議会で検討されるものの、大幅なスケジュール変更は伴わないと考えられ、動きが出るのは現1年次生(薬学部は3年次生)からの見通しです。

政府が2019年4月22日に公表した方向性、「経団連がリードしての就活スケジュールが撤廃されても、新卒一括採用を軸に置きながら、ジョブ型雇用といわれる通年採用のスタイルを複線的に行い、より多様な採用形態を確保して学修を優先する」の考え方を背景に、採用活動の時期は急に変化しない流れにあります。

環境保全 Environmental Protection

ゴーヤの グリーンカーテン 今年も育てています！

キャンパス・クリーン・サポーター(CCS:学内の環境改善に取り組む学生のボランティア団体)が、毎年恒例のゴーヤのグリーンカーテン作りに取り組みました。5月中旬に苗を植えて以降、摘芯、追肥、つるの巻き付けなどの手入れに日々汗を流しました。6月中旬には、どんどんつぼみが付いて花が咲き、緑のカーテンにかわいい黄色の模様を付けました。

遮光による温度変化では2.8℃の温度差(最高値)を観測し、エアコンの消費電力を抑えるなどの省エネルギー効果が実証され

ました。今年は植物の種類を増やして、グリーンカーテンに適しているとされるヘチマも一緒に育て、さらなる省エネルギーに取り組みました。環境改善効果に加え、涼しさも演出し、寝屋川キャンパスの夏の風物詩として目を楽しませてくれました。

今年は
ヘチマも
育てています



大学周辺の 活性化への取り組み

寝屋川キャンパスは、2018年に正門前道路を挟んだ東側の敷地(37,746.47㎡)を

取得し、これまでより面積が約4割増えました。この敷地には、ラグビー等多種の競技が行えるグラウンドの設置を進めています。これに合わせて、バス待合所拡幅のほか、大阪府道19号に面した道路側にコンビニエンスストアを誘致し、8月23日にオープンするなど、学生や地域の方々への利便性向上・活性化に取り組んでいます。





Faculty of Law

法学部

新入生アンケートを実施

法学部では、毎年4月に新入生を対象に学部独自のアンケートを実施しています。

「なぜ本学法学部を選び、何を学んで、将来の目標にどう生かそうと考えているのか」を調査することで、新入生が本学に求めている教育の在り方について把握し、今後の授業内容や学部行事に活用していくことを目的としています。また、新入生自身にとっても、アンケート

の設問内容について考えることにより、入学した目的や今後の目標を改めて認識し、学生生活スタート時から高い目的意識を持って意欲的に勉学に取り組む良いきっかけになると期待しています。

今年度の新入生に対するアンケート集計結果のうち、法学部を選んだ理由としては、「公務員試験のための勉強ができる」「公務員試験に必要な法律知識を得たい」など公務員就職に関する事項が最も多く、続いて「企業に必要な法律知識を得たい」「企業就職に必要な法律知識と教養を得たい」など一般企業への就職に関する事項となりました。

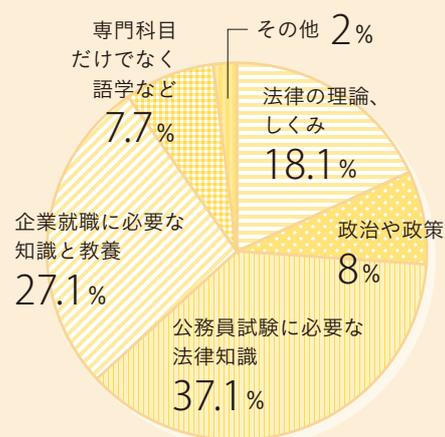
進路についても、「公務員(国家公務員・地方公務員・警察官・消防士)」が全体の半数を超え、続いて「民間企業」の順となり、公務員・民間志望者で全体の8割近くとなっています。

この結果を踏まえ、新入生が最も多く期待しているニーズである、「希望する進路目標を実現するための教育」を拡充していきます。そのため、学生の目標に応じた2年次からの「法律学特修コース」「企業法務コース」「地域政策コース」「スポーツ法政策コース」の4つのコース別教育のさらなる拡充に加え、資格取得を奨励し、検定料の補助や無料受験講座実施等の支援を充実しています。法学部生に奨励

したい資格には、法学に関する学力を客観的に評価する唯一の試験である「法学検定」やあらゆる職種で必要とされる法律知識が習得できる「ビジネス実務法務検定」などがあります。これら資格試験の受験の奨励によって、着実な法律知識の習得を促し、大学における学習成果の可視化を図ることができ、希望する進路実現に向けた確かな支援につながると考えます。

学生の期待に応えるために、今後も、学部全体でその支援に対する方策を検討し取り組んでいきます。

Q. 法学部での勉強について、何を中心にやってみたいと考えていますか？



Faculty of Foreign Studies

外国語学部

新入生歓迎イベント

英語専攻は4月22日、英語で楽しく人間関係を構築する「English Party」、中国語専攻では5月18日、中国とのつながりに触れる「神戸見学会」を実施しました。インドネシア・マレー語専攻は6月4日、「インドネシアとマレーシアをより良く知るための集まり」を、スペイン語専攻は6月6日、「スペイン語専攻生交流会」を行いました。授業とは違った形で専攻言語文化についての興味を深めました。



中華街にて記念撮影



先輩や同級生のプレゼン

パーティー」を開催しました。

5月15日、インドネシア・マレー語専攻が在大阪インドネシア共和国総領事館(大阪市北区)を表敬訪問しました。インドネシアでの挨拶の仕方、日本との関係、食事の作法、諸民族などについて、多岐にわたって紹介がありました。



参加者が自国の文化を紹介



インドネシアの雰囲気漂う総領事館で

留学帰国者報告会

6月25日、外国語学部の海外協定大学での留学を終えた28人が、滞在先の生活や大学での活動について報告しました。後期に留学する下級生が現地の状況について熱心に質問しました。

就職セミナー

5月21日、㈱リクルートキャリア、リクナビ副編集長の松田和也氏と本学就職部職員を講師に迎え、3年次生対象の学部就職セミナーを開催しました。社会が求める人材像や就職活動に向けてすべきこと、本学部の就職事情を知り、実りある就職活動への第一歩となりました。

夏期海外実習

中国語専攻の学生が上海外国語大学(8月4日~24日)、インドネシア・マレー語専攻がマレーシアのパハン大学(8月17日~29日)での夏期海外実習に参加しました。

日本にある「外国」を知る

6月19日、学内の外国人留学生(インドネシア・中国・ベトナム・韓国・スウェーデン)と、日本語教育を学ぶ3・4年次生との交流会「ニホンゴ

日本語パートナーズ

本学は、独立行政法人国際交流基金と協定を結んでおり、これまでに派遣した多くの学生がタイとインドネシアの高校で活躍しています。

ANA インターンシップ

8月28日~9月初旬、国内では中部国際空港セントレア、海外では台北空港(台湾)、ノイバイ国際空港(ベトナム)でのインターンシップに、2年次生10人、3年次生4人が参加しました。

経済学部

撰南経済ゲストレクチャーを開講
～ドイツ総領事館員や狂言師、
企業トップなどの
多彩なゲストを招く～

経済学部の教育におけるコンセプト、「実地に
近い教育を行う」を具現化した授業の一つ「撰南
経済ゲストレクチャー」は、社会の各方面で活躍
されている方々をゲスト講師として迎え、後藤
和子教授のガイドのもと、経済の現実や課題
などに触れる機会として開講しています。

今回は4月から7月にかけて、6人のゲストを
招き、豊富な経験と具体的な素材に基づいて、
「国際」「地域」「観光」経済のトピックに関連した
テーマで講演いただきました。

ゲストスピーカー

- ドイツ連邦共和国総領事館員
- ニッセイ基礎研究所研究理事
- 大蔵流狂言師
- クラブツーリズム(株)国内旅行部・
京の旅デザインセンター顧問
- 千島土地(株)代表取締役社長
- 神戸大学 EU 総合学術センター准教授



大蔵流狂言師
茂山千三郎氏



ドイツ総領事館上級専門官
ヨハネス・シュヴァイツァ氏



クラブツーリズム(株)
宮本茂樹氏



研修報告会

国際経済、地域経済、観光経済のコースに応じた実践演習を開講
～ローカルとグローバルの視点で学ぶ～

経済学部では、各ゼミにおいて積極的に
フィールドワークを行っています。さらに各
コースの学びの領域に応じた実践演習科目
(2・3年次生対象)を開講し、「国際」「地域」
「観光」の3つの経済領域において学生たちの
専門領域の知識を深めています。

企業や自治体でのヒアリング調査や長期
インターンシップ、海外研修などを通じて、経済
活動の動きを体感しながら実践力を磨きます。
実習終了後は、各実践演習合同発表会を実施
し、その成果を検証します。

		実習内容等	実習期間
国際経済	海外	オーストラリア海外研修 (ニューイングランド大学での語学研修、 国際貿易の現実を視察)	8月 (15日間)
	海外	イタリア海外研修 (協定校・IULM大学での講義、 ミラノ近郊で食、 ファッション、アート等 関連産業の視察)	2月 (7日間)
地域経済	国内	中小企業と提携し、 商品プランの企画・提案 (フランスのある雑貨商品)	7月～8月 (5日間)
	国内	寝屋川市で ソーシャル・ビジネスを考える (ベンチャービジネス・コンテストへの 応募を目指す)	6月～7月 (5日間)
観光経済	国内	自治体等主催のプログラムに参画 広島県尾道市空き家再生、 吹田市栄通り商店街イベント支援、 大阪市城東区がもよみプロジェクト	8月～9月 (10日間)
	国内	観光施設でのインターンシップ ～インターンシップを通じて 観光産業と地域の関わりを学ぶ～ (藤田観光(株)などの連携)	8月～9月 (実働20日間)
	国内	企業・自治体での ヒアリング調査(枚方市) ～地域における観光経済の 実態を学ぶ～	8月 (5日間)



経営学部

ケースメソッド授業で
ビジネス現場の「実践力」を養成

「自社生産のクッキーに異物混入。スーパー
マーケットで販売され、小学生の女の子が食べて
大ケガ。さて、企業としての社会的責任を果たす
ために、今、社内の各部署で何をすべきか?」
「アメリカの大手メーカーから特許ライセンスの
使用許諾と新製品の共同開発を提案された。
許諾する?それとも謝絶する?その理由は?」

――実社会のビジネス現場では、日々さま
ざまな現象が起きています。学生が多様なビジ
ネスストーリーの主人公の立場で、グループ
メンバーとデータ分析し、意見をぶつけ合い、



「ビジネスケースメソッド授業」のオリジナルテキスト

チームとしてプレゼンテーション・質疑応答を
行う、それが「ビジネスケースメソッド授業」です。

本学部には、民間企業などでの勤務経験が
豊富な実務家教員が多数所属しています。中
でも大田住吉教授は、座学型授業を行わず、全
ての授業でオリジナルテキストに基づく「ビジ
ネスケースメソッド授業」を展開しています。こう
した取り組みを通して、実社会で通用する真のビ
ジネスリーダーの育成を目指します。

いばきたデザイン・プロジェクト事業に学生が参画

鶴坂貴恵教授のゼミでは「まちづくりマーケ
ティング」をテーマに、実践型のゼミに取り組ん
でいます。昨年度より茨木市「いばきたデザイン・
プロジェクト事業」に参画。茨木市北部の中山
間地にある直売所「見山の郷」の活性化に取
組んでいます。当初、いきなりクラウドファン
ディングを提案し、地元の方が驚かれた様子
を目の当たりにして、学生たちは「相互理解や
信頼関係の醸成が何よりも大切。お客様では
なく仲間と思ってもらえる存在になりたい」と
の強い想いのもと、見山の郷のスタッフの方
々と協働でイベントを実施してきました。

今年度は10月頃から、次の段階にステップ

時間内に
結果を出す



積極的に
質疑応答を
展開

アップし、コンサルティングに挑戦していき
ます。講義で学んだことをフィールドで実践し、
フィールドで実践したことを講義で深める循環
により、深い学びを実現します。さらに五感
を使う「体感型の学び」を重視しており、学生
自身の気付きや想いを起点に授業を展開する
など能動的なゼミを行っています。

見山の郷での活動



笹舟競争のイベント



餅つき行事

理工学部

身近な微生物を対象に、
食品微生物学実習を実施

生命科学科

生命科学科の実験実習系科目は全部で11科目あります。1年次後期に物理学実験や生物学基礎実習を履修し、実験の基礎を身に付けた後、2年次前期から専門性の高い実習を経験していきます。中でも食品微生物学実習は、2年次生にとって最初の本格的な実習で、初めて扱う実験器具の技能習得の場にもなっています。

本実習では、納豆・麹・ヨーグルト・乳酸菌飲料・ブルーチーズ・パン酵母・キノコなど身近な食品や大学構内のさまざまな場所の土壌を材料に、微生物を採取・増殖させて光学顕微鏡等で観察しました。微生物が半日でみるみるうちに増殖する様子を実感するとともに、増殖速度の算出も行いました。学生たちは今まで経験の少ない微細な実験対象に戸惑いながらも、経験値を高めています。

本実習で得られる技術は、卒業研究で取り組むさまざまな実験で利用され、将来医薬や食品、環境分析分野で働く上で役立つと期待されます。



光学顕微鏡で微生物の増殖の様子を観察

寝屋川市における
都市プロモーションへの貢献

建築学科

町に対して抱く愛着と誇り。シビック・プライドといわれるまちづくりの課題に取り組んでいる建築学科では、真の地域資源と呼べる対象をフィールド調査を通して見定め、これまでの建築学という領域を超えた都市のデザインに挑戦しています。その成果の一つとして、2月には寝屋川市が主催する都市プロモーション映像コンテスト「NIS(ネヤガワ・イガイト・スゴイ)ショートムービーアワード2018」で、本学科の学生たちが制作した映像「水路と生きる」が栄誉あるシルバー賞を受賞しました。これは時間と

ともに風化していく水路という、いわば町が育んできた土木遺産への認識を高め、継承していくことを目的とした一つのデザイン・アプローチで、「地域資源の新たな価値付け」というまちづくりの重要な課題に挑戦したことが評価されました。本学科では、このように土地の文脈と歴史性を踏まえて町をデザインしていく能力も育成しています。



寝屋川市長と受賞者たち



寝屋川市都市プロモーション映像
「水路と生きる」
(映像作品は市のHPを参照)

<http://www.neyagawa-np.jp/nis-award/20190227.html>



「高校生大学見学会」を開催

電気電子工学科

6月18日、大阪市立都島工業高校電気電子工学科3年生78人を迎え、「高校生大学見学会」を開催しました。学科長による本学科の概要説明および本学科在籍の「都工先輩からの言葉代読」後、「ロボット実験」「電子顕微鏡および高電圧実験室」「本学科2年次生の実験(授業)」「電波暗室および電動機実験」の見学を行いました。高校の学びと関連するところもあり、お互い共通する話題で質問などが飛び交う和やかな雰囲気で見学していただきました。

見学後、「ロボット実験や電子顕微鏡など実際に見たことがなかった実験や装置を見られた」「高校と大学の違いが分かった」「摂南大学の授業や実習の様子を知ることができた」「今後の進路を考える際の参考になった」などの感想が寄せられました。電気系の知識が豊富で関心の高い生徒が多く、見学会を担当した本学科の教員・学生も大いに刺激を受けました。



ロボット実験の
説明と聞く生徒たち



電動機の実験に
挑戦

日本技術者教育認定機構(JABEE)
から高い評価

都市環境工学科

都市環境総合コースは2007年度から日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定を受けており、2018年度は継続審査を受審しました。さまざまな基準に沿ってまとめた自己点検書による書類審査、3日間に及ぶ実地審査を経て、2019年3月末に最終結果が通達されました。その結果、非常に高い評価を得ることができ、最長期間である6年間の認定を受けました。

JABEEの認定基準は、技術者教育認定の世界的枠組みであるワシントン協定などの考えに準拠しており、認定プログラムの修了生は国際的に通用する教育を受けた技術者として認められます。



日本技術者教育認定機構(JABEE)からの認定証。

理工学部改編時の認定証であるが、今回の審査で2024年まで有効になった。

多彩な材料の切断、彫刻が
可能なレーザー加工機を導入

テクノセンター

レーザー加工機を2018年に新たに導入し活用されています。本機は、厚さ15mmまでのアクリル板や木材などが切断でき、材料の表面に文字やイラストなども彫刻することができます。パソコンで操作するため、CADで作った図面データ以外にイラストレーターなど市販のソフトで作成した図なども扱うことができます。これまでに、入学宣誓式の記念撮影用パネルや建築学科学生による寝屋川市周辺の模型、「鳥人間コンテスト」用グライダー部品の製作などさまざまな用途に使用しています。



薬学部

ラグビー部員向けに「アンチ・ドーピング教育」を実施

5月20日、寝屋川キャンパスでラグビー部員を対象に「アンチ・ドーピング教育」を実施しました。講師は日本アンチ・ドーピング機構(UADA)公認「スポーツファーマシスト(※)」の資格を持つ薬学部の中野和秀講師が務めました。

講習会では、ドーピング防止啓発のために開発された「ドーピングガーディアン」を使ったゲームを行い、「うっかりドーピング」について理解を深めました。また、禁止物質のステータスを簡単に確認することができるWebサイト「グローバルDRO」の使用方法を体験しました。



中野講師によるアンチ・ドーピングの講習

市販薬やサプリメントに含まれているドーピング禁止物質について理解を深めるとともに、アンチ・ドーピングに対する意識を高めることのできる講習会となりました。



カードゲーム「ドーピングガーディアン」



ゲームを通して学ぶラグビー部員たち

※最新のアンチ・ドーピング規則に関する情報・知識を持ち、アスリートやスポーツ愛好家に薬の正しい使い方の指導などを行う専門家。

海外研修 in ベトナムを開催

薬学部では、グローバル人材育成事業として、2月24日から7日間の海外研修を実施しました。本研修では、面接で選ばれた学生12人が、ベトナム南部ホーチミン近郊のカカオ農園や日系



ベトナムで活躍する日本人薬剤師(本学卒業生)からの説明に熱心に耳を傾ける学生たち

製薬企業の工場、日本人医師常勤病院、枯れ葉剤障がい児支援施設などを訪問。帰国後の報告会では、日本とは異なる病院・薬局事情や日本人薬剤師に期待されている役割などについて発表しました。今後は、海外研修inタイに加えて米国臨床薬学研修も実施予定であり、学生が国際感覚を養う機会が増加します。

受賞者続出！ 学会発表で頑張る学生たち

薬学部の人材養成に関する目標として「高い倫理観、心豊かな人間性、実践的能力を備え、わが国の医療の進化、健康・福祉の増進、生活環境の保全に貢献する薬剤師を養成する」を掲げています。その目標を達成するために、自己研鑽に励み、授業・実習、卒業研究を通して、問題解決力を向上させる取り組みをしています。

学会賞受賞者

- 日本薬学会第139年会
「学生優秀発表賞(ポスターの部)」受賞
(2019年3月)
金田 祥子さん(学部6年次)
金山 実沙さん(大学院3年次)
- 日本薬剤学会第34年会「日本薬剤学会永井財団学部学生七つ星薬剤奨励賞受賞」
(2019年5月)
吉田 祐樹さん(学部6年次)
伊高 克哉さん(学部6年次)

看護学部

キャリア教育で新たな取り組み 「自己の探求」プログラムを導入

看護学部では、学習意欲の向上、専門職としての意識の醸成、人格的な成長を培うことを目的として、1年次前期に「キャリア入門」を開講しています。今年度から新たな取り組みとして、当該科目に「自己の探求」プログラムを導入し、4月13日に新入生101人が受講しました。本プログラムは「自己理解を深める」「他者が自己理解を深めることに協力する」「チームビルディングを体験する」ことを目的にスモールグループを形成し、ディスカッションを中心に学生が主体的に取り組むものです。



学生たちは授業を通じて、自分では認識していなかった自身の強みに気づき、自己効力感を高めることができました。

参加した学生からは「来年の新入生にも受講してほしい」「苦手だと思っていたコミュニケーションが楽しいものになった」「自信が付きました。楽しく取り組めた」「大学生活がより一層楽しく過ごせそう」などの感想が寄せられました。



「自己の探求」プログラムでのディスカッション

米国ロサンゼルスで 「海外医療セミナー」を実施

3月5日から3月12日まで、「海外医療セミナー」を実施しました。同科目は、実際に海外の臨床現場を訪れ、現地での看護の実践について学ぶもので、2年次生(当時)の学生10人が米国ロサンゼルスでのセミナーに参加しました。

現地では病院や高齢者施設の見学をはじめ、看護を学ぶ現地の学生や現職の看護師との交流を図るなど、米国の医療の在り方について学習しました。

参加学生にとっては普段の学内の講義だけではなかなか経験できない、多種多様な人種を受け入れる米国の看護や医療事情、日本との考え方の違いについて学ぶ機会となりました。8日間の短い期間ではありましたが、本セミナーでの学びは参加学生にとって大変貴重な経験となりました。



海外医療セミナー

情報教育 支援

コンピュータを利用した英語学習システムの講習会を開催

5月20日、寝屋川キャンパスでe-Learning英語教材「ATR CALL BRIX」を利用した講習会を開催しました。参加した学生は、英語力の養成を目指し2016年度から実施している「全学共通英語課題」の進め方について説明を受けた後、課題に取り組みました。「ATR CALL BRIX」はTOEIC®L&Rや英検の問題をベースに、英単語学習・ディクテーション・発音練習など、英語の4技能を効果的にバランスよく身につけることができるe-Learningシステムです。自学自習教材として学外からの利用も可能です。



情報メディアセンター

教員を対象に研修会を開催

3月23日、寝屋川キャンパスでCALL (Computer Assisted Language Learning) 教室を利用しての教員向けにICT活用



相談会を開催しました。相談会は、CALL教室にて実機を用いて語学学習支援システムやプレゼンテーション

システムを体験するとともに、システム利用に関する意見交換などを行いました。

5月27日には、枚方キャンパスで看護学部教員向けにMoodle (学習管理システム) 研修会を開催しました。Moodleの基本操作を体験するとともに、アンケートや課題提出などの機能をデモ形式で紹介しました。

これらの研修会を通して、教員自らがICTを活用したティーチングスキルを高めることで、学生の能動的な学びを引き出す支援をしています。

「日中大学フェア&フォーラム in CHINA 2019」で融合共同研究「光合成建築」を出展

5月25日から5月27日まで、中国四川省の成都で、日本の科学技術振興機構 (JST) と中国の科学技術部による、大学交流、留学促進、産学連携を目的としたイベント「日中大学フェア&フォーラム in CHINA 2019」が開催され、理工学部住環境デザイン学科の川上比奈子教授と同学部生命科学科の松尾康光教授が、融合共同研究「水/クロロフィル系太陽光発電燃料電池システム搭載環境調和型建築デザイン」を出展しました。この研究は、2018年度に日本最大規模の産学連携イベント「イノベーション・ジャパン」に出展し、400件の研究テーマから選出されたもので、今回のイベントではブースが出展されている40の研究テーマの中の一つでした。

ブースでは、葉緑体を利用した太陽光発電燃料電池システムを建築物に利用する研究を「光合成建築」として紹介しました。「光合成建築」は、伐採された木々や廃棄植物の葉から抽出した葉緑体の溶液を、透光性のある二重パネルやチューブに注入し、それらを住宅や駅舎といった建物の屋根、壁、窓などに組み込んだものです。建物は水素と酸素を生成し、水素は発電に利用され、酸素は自然に

還ります。また、パネルとチューブの緑色により、自然と調和した外観と、屋内の美しい空間を創出します。建物が樹木のように機能する、新しい居住環境システムの提案です。

中国は環境共生を強く推進しており、ブースを訪問した中国の大学、企業、報道機関、政府機関などの多くの関係者から熱心に質問を受けました。このように、中国でも本研究と産学連携への高い関心が寄せられており、今後は連携の実現に向けたさらなる進展が期待されます。

また、JSTのWebサイトには本イベント特集記事として、本研究を含む4つの研究が取り上げられています。

研究 支援



光合成建築模型
(川上比奈子ゼミ生が作成)



取材を受ける川上比奈子教授



研究の説明をする松尾康光教授

会期中、
多くの来場客で
にぎわった会場



JSTの本イベント特集記事
https://spc.jst.go.jp/event/univff_reports/rep_ff2019c_3.html

入試インフォメーション



農学部の入試を実施します!

★公募制推薦入試A日程は、全学部で「文系科目型」「理系科目型」を選択することができます。



公募制推薦入試と一般入試の日程を変更しました!

★公募制推薦入試の試験日は
11/21・22(昨年度は11/3・4実施)
★一般入試の試験日は
前期A日程2/2・3(昨年度は1/22・23実施)
B日程2/17・18(昨年度は2/9・10実施)



薬学部は、公募制推薦入試薬学部独自方式を新設!

★化学基礎・化学+面接で選考します。



看護学部は、公募制推薦入試A日程の試験日を増設!



大学入試センター試験利用入試の配点を変更しました!

2020年度入試日程表

入試区分	募集学部	試験日	出願期間	合否発表日		
公募制推薦入試	薬学部独自方式	薬学部	11/1(金)~11/7(木)	12/4(水)		
	A日程	全学部 (農学部[文系科目型] [理系科目型])	11/21(木)		11/1(金)~11/11(月)	
		法学部	11/22(金)			
		外国語学部				
		経済学部				
		経営学部				
		理工学部 (住環境デザイン学科のみ [文系科目型])				
農学部[文系科目型]						
B日程	全学部	12/7(土)	11/1(金)~11/25(月)	12/18(水)		
一般入試	前期A日程・AC日程※	全学部	2/2(日)	12/25(水)~1/22(水)	2/15(土)	
		全学部	2/3(月)			
	前期B日程・BC日程※	法学部	2/17(月)	12/25(水)~2/5(水)	2/29(土)	
		外国語学部				
		経済学部				
		経営学部				
理工学部 (住環境デザイン学科のみ [文系科目型])						
農学部 食農ビジネス学科 [文系科目型]						
後期日程	全学部	2/18(火)	2/1(土)~2/24(月)	3/16(月)		
大学入試センター試験利用入試	前期	全学部			12/25(水)~1/22(水)	2/15(土)
	中期				12/25(水)~2/5(水)	2/29(土)
	後期		2/1(土)~2/24(月)	3/16(月)		

※AC-BC日程は「センター試験プラス方式」

【お問い合わせ先】 入試部(寝屋川キャンパス) TEL:072-839-9104 <https://www.setsunan.ac.jp/nyushika/>

農学部が 2020年4月開設へ



このたび、文部科学省より本学農学部の設置が認可されました。
2020年4月に第一期生を迎え、新たな学びが枚方キャンパスからスタートします。
グローバルな視点で「食」と「農」に関する知識・技術を持ち、
社会課題の発見とその解決に取り組める人材を育成します。

公募制推薦入試は11月1日(金)から、一般入試は12月25日(水)からWEB出願受付を開始します。

農業生産学科

入学定員
80人



農作物の持続的・安定的な供給を目的に、植物の疾病や生産環境を科学的に追究するとともに、新たな農作物(穀物、野菜、果樹、花など)や生産技術の開発とその高度利用を目指します。

学びのポイント

- 作物生産と生産環境について学び新しい農作物を創成する力を養います。
- 作物生産における栽培の理論と実際を学び課題解決能力と実践力を培います。
- 農業に対する正しい理解と農作物生産に貢献できる知識、技術および情熱を有した人材を育てます。

応用生物科学科

入学定員
80人



農学的な応用・活用を目的に、植物、動物、海洋生物、微生物などの生命活動とその原理やしくみを分子から個体・生態系までを含む広い視点で深く追究します。

学びのポイント

- 触れて、育て、実験し、予測することから、最先端の生物科学を学びます。
- 農学と生命科学について多様な専門知識をもった人材を養成します。
- 食品・生命・環境に関わる多様な産業分野で活躍できる人材を育てます。

食品栄養学科 [管理栄養士養成課程(予定)]

入学定員
80人



食品の安全・安心と健康の持続を目的に、農産物の幅広い知識を基盤とした食品の機能性、栄養、食育などを科学的に追究します。

学びのポイント

- 「農学」の学びを基盤とした食のプロセスを体系的に学ぶ教育プログラムを通して、農学の幅広い観点をもった管理栄養士を養成します。
- 体験型の授業を実施し、学生が自ら考え実践して学びます。
- 薬学部・看護学部との医療人多職種連携教育を推進します。

食農ビジネス学科

入学定員
100人

文系
学科



世界や日本における農産物や食品の持続的な供給を目的に、グローバルな視点から生産・加工・流通・消費などの社会経済活動の諸課題を発見し、その解決を目指します。

学びのポイント

- 経済・ビジネス・マーケティングの観点から「食」「農」を学びます。
- 生産から消費までのプロセスを理解し、幅広い視野から課題発見・解決する力を養います。
- 「食」「農」の専門知識を活かし、国内・国外で活躍できる人材を育てます。

ホームカミングディ 「All摂南大学Day」を 開催

in 京セラドーム大阪



8月24日、京セラドーム大阪(大阪市西区)で大学の卒業生、在学生、受験生とその家族が集うホームカミングディ「All摂南大学Day」を開催しました。約1000人の「摂南ファミリー」が球場1塁側内野席に集まり、プロ野球パ・リーグ公式戦「オリックス・バファローズ 対 北海道日本ハムファイターズ」戦を観戦。この日配られたオリジナルタオルとスティックバルーンを持って大きな声援を送りました。

試合前には摂南ファミリー限定のイベントも数多く実施。練習見学会をはじめ、サイン会や選手との写真撮影会、グラウンドでのキャッチボールを楽しみました。オープニングセレモニーでは、常翔学園中学・高校合唱部が国歌を斉唱し、摂南ファミリーの子どもたちが両球団選手に花束を贈呈しました。始球式には、経営情報学科卒業生の加西幸裕さんが登板。見事なノーバウンドピッチングでキャッチャーミットに速球をおさめ、球場から歓声が沸き起こりました。

場内コンコースに設置した農学部のパブブースでは、本学と連携協定を結ぶJA北河内によるマルシェを出展。マスコットキャラクターの「きたぴー」も登場してにぎわう中、ブースは多くの来場客を集めました。

試合終了後にはドーム内スカイホールで本学と校友会共催の交流会を開催。卒業生や教職員が一堂に会して親睦を深め、在学時代の思い出話や互いに近況を語り合うなど、旧交を温める一日となりました。

子どもたちから
選手への
花束贈呈

常翔学園中学・
高校合唱部
による国歌斉唱



[写真協力©ORIX Buffaloes]

始球式で
速球を
披露した
加西さん



JA北河内が
出展した
大阪の地元野菜も
大人気!

グラウンドで
応援を盛り上げる
JA北河内の
マスコットキャラクター
「きたぴー」



オリックス球団との連携で、野球ビジネスを学ぶ経済学部の学生が同日、京セラドーム大阪で実施した「ダイナミックプライシング(変動価格制)」チケット販売に関する調査のプレゼンテーションを球団職員の方々に行いました。





始球式に登板した
卒業生の加西幸裕さんに
大学生活での思い出や
卒業後の活躍について
お聞きしました！



株式会社くれおーる
代表取締役社長 加西 幸裕さん

Profile

2004年 経営情報学部経営情報学科卒業
高校2年だった1999年2月に現会長の母親とともにたこ焼き店を開業。現在では「くれおーる」をはじめ「0℃熟成ステーキ」「豚串 幸」「道頓堀クレープ」の4つの業態を展開、大阪市内に9店舗、東京都内に1店舗を構える。

くれおーる

7種類の粉をブレンドしたオリジナル生地は、外はカリッ、中はトロッの食感で大人気。なにわの中心地にある道頓堀店は「たこ焼・お好み焼・串かつ」の大阪名物が一度に楽しめるレストランとして、国内外の観光客や地元の常連客に支持されている。

ホームカミングディで
恩師 佐井英子教授(写真中央)と
15年ぶりの再会



加西君、立派になったね。体も…。
研究室で食べた冷めたたこ焼き、
おいしかったです。



今、再び大学との縁を感じています

学生時代は授業が終わるとすぐに家業の店に向かう毎日で、学生らしい経験はあまりできなかったのですが、大学にいる時は府外のさまざまな県出身の友達との交流が新鮮で、世界が広がりましたね。香川、愛媛、山口、広島、石川などなど。みんな素直で、大学の雰囲気も伸び伸びしていて、すごく居心地が良かった記憶がよみがえります。ゼミは企業経営に関する研究室で、担当の佐井英子先生(現・経営学部長、教授)には、卒業論文をはじめ学業と仕事の両立を応援いただき、今でも本当に感謝しています。また当時、年に一度、全学の有志によるソフトボール大会があり、毎年、学部の仲間と淀川の河川敷で練習したことが楽しい思い出になっています。

学生時代の仲間とは今でもよく会いますね。みんな地元に戻って進路はさまざまですが、それぞれに経験を積んで頑張っている。刺激を受け、仕事の新たな展開につながることもあります。卒業後、約15年を経て、改めて特別な存在だと感じます。また、この数年、校友会や淀都会(※)の活動に参加する機会も増え、コミュニティの良さを実感。大切にしていきたいと思っています。

※淀都会(ていとかい)は、本学卒業生で構成する団体で、各界で活躍するOB・OGが親交を深め、異業種間のビジネスチャンスの発掘を行うことを目的として活動しています。

たこ焼きから、「TAKOYAKI」へ

飲食店の最大の魅力は、お客様と直接つながれて、「ありがとう」と言ってもらえることだと思います。飲食業は“人産業”。そこで働く人が幸せじゃないとお店は続きません。今は働き方改革が進められ、ワークライフバランスが重視され始めた転換期。スタッフの思いに寄り添いながら、モチベーション高く働ける環境づくりを常に模索しています。ですから、店舗数などの規模を追うのではなく、一つひとつの店舗を磨いて、志を持つスタッフを育て、独立を応援することで仲間を増やしていきたい。本社はスケールメリットを発揮して、仕入れや資金面などで安定的な経営を応援していきたいと考えています。

もう一つの目標が、たこ焼き文化を世界に発信すること。若い頃から情熱を注ぎ、育ててもらった「たこ焼き」が、どこまで世界で認められるか挑戦していきたいです。2017年には、「アスタナ国際博覧会万博」(カザフスタン)で参加国が自国の文化をアピールする「ナショナルデー」のレセプションに参加。たこ焼きのプレゼンテーションを行いました。他にも、大阪観光局への協力など、さまざまな活動に取り組んでいます。社名の「くれおーる」は、ラテン語で「創造する」の意。たこ焼きの新しい価値を創造し、世界で親しまれる存在へと育てていきたいと考えています。

後援会 会長 挨拶



会長 神田 耕吉

保護者の皆さまには、日頃より摂南大学後援会の活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

昨年度に引き続き、後援会会長に選任されました。

後援会は、大学と家庭との連携を密にし、より良い教育環境の提供を目指し、5つの事業に取り組んでいます。中でも重点的に取り組んでおります教育懇談会については、ご子女の様子を担当の先生から直接聞くことのできる貴重な機会です。この機会にぜひとも出席いただき、日々の不安を解消いただくとともに、参加者同士の情報交換の場としても活用いただければと思います。就職状況についても大学の就職担当職員が相談を受けておりますので、ご利用ください。

保護者の皆さまには、今後とも後援会活動の趣旨をご理解いただくとともに、各種行事への積極的なご参加をお願い申し上げます。

2019年度 事業計画

- 【1】大学と家庭との連携強化
キャンパスガイド・大学広報誌「さやけき」の送付 ほか
- 【2】教育懇談会の実施
春期・秋期の年2回開催
(それぞれ寝屋川・枚方両キャンパスで実施。秋は学外でも実施)
- 【3】教育に対する援助
研究発表・ゼミ旅行・資格試験への援助 ほか
- 【4】課外活動に対する援助
課外活動・大学祭への援助 ほか
- 【5】就職活動に対する援助
保護者向け就職支援冊子作成援助、
就カツセミナー開催費用援助 ほか



後援会総会を開催しました

2019年度後援会総会を5月25日、寝屋川キャンパスで開催しました。開催に先立ち、神田会長の挨拶の後、議長に平井良治前副会長が選出されました。2018年度決算報告、

2019年度事業計画および予算案等について議案の審議が行われ、全て原案どおり承認されました。2019年度の三役



後援会総会

(下記参照)が選出されたほか、新たに8人の新役員候補者が承認され、計57人の新運営体制が整いました。

【2019年度 三役】(※敬称略 50音順)

会長	神田 耕吉(薬学部)	伊瀬 徹(経済学部)	仲田 久美子(薬学部)
副会長	奥田 篤司(法学部)	加藤 実生(看護学部)	能美 孝司(経営学部)
監事	金谷 直美(外国語学部)		山下 栄(経営学部)
			山本 華織(理工学部)

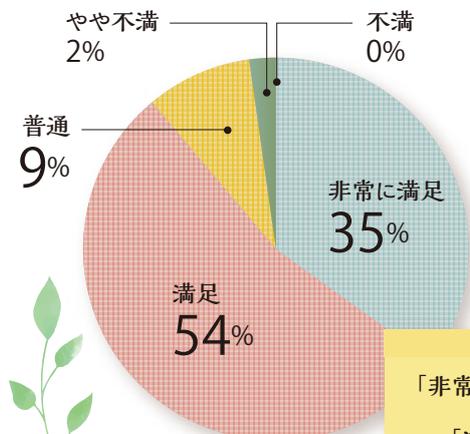
春期教育懇談会を開催しました

家庭と大学をつなぐ連携の一つとして、教育懇談会では、教員との個別懇談等の機会を設けております。

2019年度春期教育懇談会を6月8日に開催しました。寝屋川・枚方両キャンパス合わせて599組791人の方に参加いただきました。一部ではございますが、参加された皆さまからのご意見・ご感想を掲載します。

個別懇談の内容について

2019年度春期教育懇談会アンケート結果
(有効回答数170件集計)



「非常に満足」
+
「満足」

89%

毎年多くの保護者の皆さまに参加いただき、さまざまな声をいただいています！



参加いただいた
皆さまからの声

個別懇談では、先生から学校での様子や学業状況について聞くことができました。子どものことをよく理解していただいていることが分かり、ありがたく思います。

(理工学部)

昼食時に、他学年の保護者の方と交流する機会が持て、いろいろと教えていただきました。秋に開催される教育懇談会にもぜひ参加します。

(薬学部)

個別懇談では、学生と先生の距離が近く、親身に向き合っていただいていることが分かり、安心しました。

(経営学部)

秋期教育懇談会のご案内

10月から11月にかけて、本学(寝屋川・枚方)会場に加えて、学外9会場で開催します。今抱えている問題や質問があれば、ぜひご参加ください。詳細については、8月に送付の案内状または本学ホームページをご確認ください。

＜ 本学ホームページ 後援会サイト：<https://www.setsunan.ac.jp/family/kouenkai/education.html> ＞



【2019年度 開催スケジュール】

本学会場	
10/12(土) 寝屋川キャンパス	10/26(土) 枚方キャンパス
学部(学科)の総括説明をはじめ、個別懇談や就職講演を行います。 摂大祭(大学祭)と同時開催のため、模擬店のチケットをお配りします。学内を自由に見学しながらお食事もお楽しみください。	学部(学科)の総括説明をはじめ、担任紹介や個別懇談を行います。 個別懇談終了後、もう少し聞きたかったことやご相談などを和やかな雰囲気の中でお話いただく立食形式による懇談会を開催します。

学外会場						
10/6(日)	10/20(日)	10/27(日)	11/3(日)	11/9(土)	11/10(日)	11/16(土)
京都	福井 奈良	和歌山	高松 福岡	岡山	米子	梅田

＜学外会場の流れ＞

- ①全体説明会
当日参加の後援会役員および教職員の紹介を行います。
- ②個別懇談
各学部から教員が会場に赴き、ご子女の成績、生活状況等について個別に懇談を行います。
- ③就職相談 (3・4年次生、薬学部は5・6年次生対象)
個別懇談の待ち時間を利用して、就職・進路に関して就職部職員が個別に相談を行います。
- ④自由懇談
個別懇談終了後、個別懇談でご相談できなかったことやもう少し詳しく聞きたかったことを和やかな雰囲気の中でお話いただく立食形式による懇談会です。



個別懇談



自由懇談



家計が急変し、学費の支払いに困った場合は…

奨学金・教育ローン・学費減免・アルバイト等のご案内

区分	名称	返済の要・不要
奨学金	①日本学生支援機構奨学金(JASSO)の緊急/応急採用	必要
	②貸与金額の増額(すでにJASSO奨学生の場合)	
	③地方公共団体・民間奨学団体の奨学金	団体により異なる
教育ローン	①国の教育ローン 日本政策金融公庫	必要
	②本学との提携ローン 学費サポートプラン(オリエンコーポレーション) 悠裕プラン(ジャックス)	
学費減免	学費減免制度(※給付制の学内奨学金を受給している者等、適用対象外となる場合があります)	不要
一時金	JASSO支援金(自然災害等により住居に被害を受けた場合)	不要

不慮の事故や災害等により家計が急変し、**学業継続に支障が生じた場合の経済支援策をご案内します。**

◎申請にあたっては、申請書をはじめ収入に関する書類が必要です。
募集案内や説明会等、奨学金に関することはポータルサイトでお知らせしますので、情報を見落としのないよう留意してください。

アルバイトのご案内

パソコンや携帯電話からいつでもどこでも安心な求人情報が入手できるサービスを提供していますので、有効に活用してください。

◎利用にあたっては、働ナジックへのアルバイト登録が必要です。
登録希望の方は、本学のHP⇒学生生活⇒「学生マンション・アルバイトについて」から手続きしてください。

特別講演会

元世界チャンピオンから学ぶ

～勇気・努力そして挑戦～

王者になるまでの努力や挑戦、その後の逆境から立ち上がり今の活躍につながるこれまでの経験をお話していただきます。

亀田興毅



講師 亀田興毅・大毅兄弟(元プロボクサー)

日時 2019年10月12日(土)
13:30~14:45

場所 摂南大学寝屋川キャンパス
(5号館5階552教室)

参加費 無料(事前申し込み不要)

主催 摂南大学・摂大祭実行委員会

亀田大毅



学園および本学の取り組みにご支援をお願いします!

常翔学園
創立100周年記念募金

2022年、常翔学園は創立100周年を迎えます。これを記念し、摂南大学が今後とも持続的に発展を遂げ、将来に向けて大きく飛躍するため、下記の記念事業を計画しています。皆さまのご理解ご支援を賜りますようお願いいたします。

摂南大学の推進事業の種類

キャンパス整備事業 奨学金充実事業

学校運営支援事業 課外活動支援事業

プロジェクト支援事業

- ① 摂南大学学生支援プロジェクト
- ② 災害時医療支援力を高める地域創生プロジェクト
- ③ Smartキャンパス整備プロジェクト

募金に関する情報 >>>

<http://kifu.josho.ac.jp/setsunan/>



農学部 開設記念シンポジウム

食と農の未来を考える

～次世代農業の視点から～



参加無料
要事前申込

定員
500人

10月19日(土)

13:30~17:00(13:00受付開始)

OIT梅田タワー(大阪工業大学 梅田キャンパス)常翔ホール

基調講演
1

「島耕作から見る日本の未来」

講師:弘兼 憲史氏

参加者全員に
「島耕作の農業論」
(光文社新書)
プレゼント!



基調講演
2

「SDGsを超える農学の可能性」

講師:西澤 直子氏

日本農学会会長、石川県立大学学長

パネルディスカッション

●パネリスト

西澤 直子氏
日本農学会会長、石川県立大学学長

中島 隆氏
農研機構本部 企画戦略本部長

稲熊 隆博氏
信州大学農学部特任教授

三原 洋一氏
NKアグリ株式会社 代表取締役社長

●コーディネーター

久保 康之氏
京都府立大学教授、摂南大学客員教授



お申し込み方法

下記サイトよりお申し込みください。

<https://www.i-jimu.jp/setsunan-nougaku>

定員になり次第締切とさせていただきます。



さやけき

「さやけき」とは

「さやけき(清けき)」は、明るい、清々しい、清く澄んでいるなどの意味を表します。大学歌に「学風さやけき摂南の」の詞があるとおり、本学の明るく、若さあふれる清々しいイメージを象徴する言葉です。

表紙の人

(左上)堂野将幹さん、(右下)宇田育生さんとともに機械工学科3年次)。7月27日、28日に行われた「第42回鳥人間コンテスト2019」(主催:読売テレビ)の滑空機部門に、本学航空研究部と守口門真商工会議所青年部との協働チーム「守口門真YEG×摂南大学」のメンバーとして出場。(本誌P2でも紹介しています)

